



文章題というのは、まず文章の意味を理解しなければならない。しかるのちに、求めるものを見つけて、求めるまでのいくつかの条件をクリアしなければならない。文章題に強くなるというのは、このような関門を自分の力で乗り越えていく力を育ててやるということなのである。

文章題というのは、つまり問題に出てくる数(量)と数(量)の関係を式にまとめるということなのである。
(全集24「向山型算数」以前の算数)

<h3>1. 文章問題の基本型</h3>	<h3>2. 問題文を読む</h3>	<h3>3. 問題場面全体をイメージさせ、次にどうなったか問う</h3>	<h3>4. 問題文を絵(図)に表す</h3>	<h3>5. 式、(ひっ算)、答えを書く</h3>
<p>「場面」さるが7ひきいます。 「条件」9ひききました。 「問い」さるは、ぜんぶでなんびきになりましたか。</p>	<p>【可測的な方法】 「1回読んだら〇に色を塗りましょう」 【目安の提示】 「すらすら読めるまで読みましょう」</p>	<p>「一言で言うとどんなお話ですか。」 (さるの全部の数を数えるお話) 「はじめは、どうだったのですか。」 (7ひきいた。) 「次に、どうなったのですか。」 (9ひききた。)</p>	<p>イラスト図やだんご図、テープ図、線分図、面積図など学年の実態に応じて書かせる。</p>	<p>式、ひっ算、答えの3点セットを書くことを教える。 答えは、単位を忘れないことを伝える。</p>

算数文献による文章問題指導の方法

文章問題スキル一例

ポイント

- ①問題文を音読する
- ②文章題を要約する
「これがどんなお話ですか」「どういうお話ですか」
- ③文章題を絵や図にかく
⇒1年生は、タイルでもいい。「タイルを使ってお話しなさい」
- ④立式
⇒分からなかったら、すぐに式を書いてあげる
- ⑤計算

ポイント(一部抜粋)

- ①問題文を2~3回読み、意味の分からないところをしっかり理解する。
- ②問題文のあらすじを基にして、都合のよい図に書き表すようにする。
→図は線分図が効果的。☆1年生はだんご図
- ③数値が大きくて考えにくいところは、易しい整数になおす。
- ④公式が使えるかどうか考える。
- ⑤式を書いて、「文章題」の意味を式のうえで考え直してみる。
→「あわせて」「へると」などの算数用語の理解が必要
- ⑥計算を正しくして、検算する。
- ⑦答えにつける単位名に気をつける。

ポイント

- ①場面に合う絵を選ぶ
- ②場面に合う絵をかき⇒半具体で操作
- ③式を言葉にして考える

1年算数 たしざん・ひきざん

(1)たしざん(合併・増加)ひきざん(減少)の理解
☆何算ですか? どうしてですか?

(2)図や絵にかかせる
(3)問題の分析

- ①求めることをはっきりさせ、その部分を○で囲ませる
- ②とくために必要なことをはっきりさせる
- ③どのような計算にしたらよいのか考えさせる

(4)答えの吟味

- ・検算する
- ・求めることは何か確認する
- ・単位を書く

もんだい

あかい ふうせんが 4こ、あおい ふうせんが 2こ あります。ぜんぶで なんこ ありますか。

- ① もんだいぶんを よもう。(よんだら〇をぬろう)

○○○

- ② どんな おはなし ですか。(うすいじを なぞろう)

ふうせんの (ぜんぶの かず)を (かぞえる) おはなし

- ③ もんだいぶんを えに あらわしましょう。(うすいところを なぞろう)

4こ 2こ

- ④ しきを かきましょう。

しき +

- ⑤ たんに きをつけて こたえを かきましょう。

こたえ (ひき)